

北アルプス日本海広域観光連携会議 第4回広域観光連携専門委員会

平成29年2月16日
糸魚川市役所203会議室

1 開会

2 報告

北アルプス日本海広域誘客促進事業（VJ地方連携事業）・・・・・・・・ 別紙

3 審議事項

平成28年度決算（案）について・・・・・・・・ 資料1

平成29年度事業計画、予算（案）について・・・・・・・・ 資料2

今後のスケジュールについて

3/22（水） 幹事会（14：00～糸魚川市民会館）

5/16（火） 総会（16：00～ヒスイ王国館）

4 その他

平成28年度 決算見込

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算見込額	比較増減	説 明
	7,689,000	7,689,000	0	
1. 負担金	5,000,000	5,000,000	0	糸魚川市
	630,000	630,000	0	上越市
	890,000	890,000	0	大町市
	275,000	275,000	0	白馬村
	94,000	94,000	0	小谷村
	400,000	400,000	0	朝日町
	400,000	400,000	0	新潟県
2. 特別負担金	1,100,000	1,100,000	0	新潟県
3. 補助金	0	0	0	
4. 雑収入	200,000	145,000	55,000	総会交流会費、預金利息
5. 繰越金	3,061,355	3,061,355	0	
計	12,050,355	11,995,355	55,000	

【支出の部】

科 目	予算額	決算見込額	比較増減	説 明
1. 事業費	11,284,000	9,574,385	1,709,615	
広告宣伝	1,000	0	1,000	広域マップ増刷
誘客宣伝	7,170,000	6,226,134	943,866	VJ地方連携事業、AGTモニターツアー
イベント関連	0	0	0	
二次交通	3,913,000	3,148,251	764,749	駅レンタカー乗捨無料事業、鉄道魅力発信事業
ホームページ管理	200,000	200,000	0	ホームページ管理
2. 連携会議運営費	666,355	636,166	30,189	
会議費	200,000	186,166	13,834	総会、交流会等
事務委託費	450,000	450,000	0	糸魚川市観光協会委託
事務通信費	16,355	0	16,355	消耗品、事務通信費等
3. 予備費	100,000	0	100,000	
予備費	100,000	0	100,000	
計	12,050,355	10,210,551	1,839,804	

事業計画、執行状況等に応じて、科目間の流用を行えるものとする。

収入11,995,355円 - 支出10,210,551円 = 差引1,784,804円 は次年度に繰り越す

資料 2

**北アルプス日本海広域観光連携会議
平成 29 年度事業計画書（案）**

(単位：千円)

区分	事業名		事業費	事業別
広域観光PR	誘客宣伝	広域旅行商品の販売促進（継続）	900	4,600
		ビジット・ジャパン地方連携事業（継続）	3,700	
	HP管理	ホームページ運営管理（継続）	200	200
			4,800	4,800
二次交通	二次交通	冬季シャトルバス運行事業（継続）	400	3,105
		鉄道魅力発信事業（継続）	905	
		カーゴトラック&トレイン（新規）	800	
		スノーリゾートシャトルバス（継続）	1,000	
			3,105	3,105

誘客宣伝

広域旅行商品の販売促進（継続）

1 趣旨

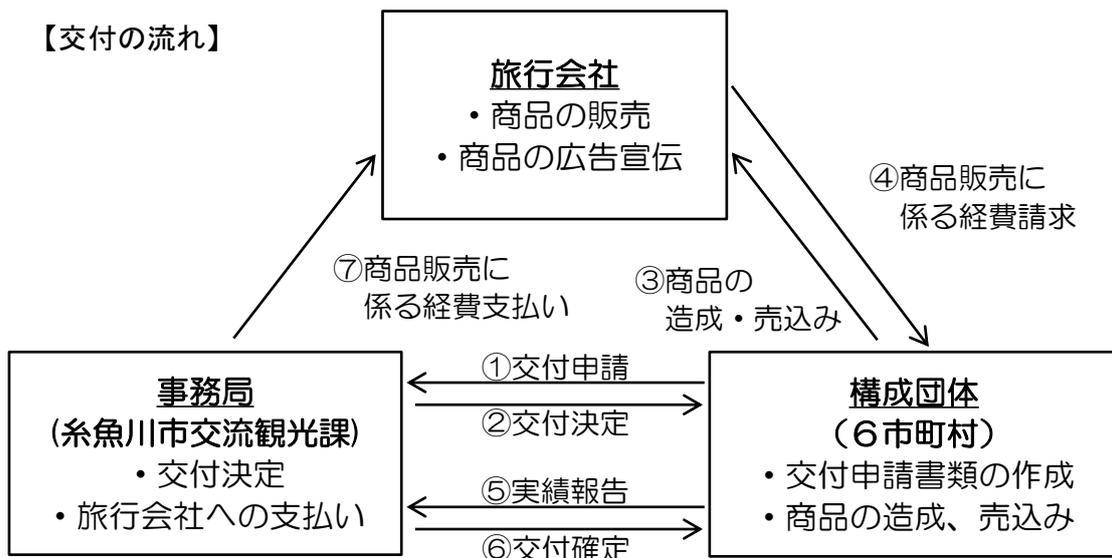
広域旅行商品の造成及び販売を通じて当エリアへの誘客拡大並びに認知度向上を図る。

2 事業計画（案）

(1) 北陸新幹線糸魚川駅を利用した広域旅行商品の企画造成、または販売に係る費用を負担する。連携会議構成団体が自ら企画するツアー商品のほか、旅行会社が送客を促すための支援としても利用可。

例：広告協賛金、ツアー代金への充当、バス代補助等

(2) 2市町村以上を跨るコース設定を条件に広域エリアでの周遊を図る。



3 目標

認知度向上
誘客拡大

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	商品開発・売込											

5 事業費（概算）

900,000 円 （150,000円×6市町村）

誘客宣伝

ビジット・ジャパン地方連携事業（継続）

1 趣旨

平成28年度に実施した当事業により、各市町村でサイクルスポーツへの関心が高まり、環境整備へ向け動き出した。ターゲットである台湾からの照会も入ってきており、プロモーションを継続することで認知度の向上と誘客拡大を図る。

2 事業計画（案）

(1) 旅行会社招請（平成29年4月・6月）

サイクルツアー商品を造成している旅行社をエリア毎の見所の時期に招請し、今後のツアー商品造成に繋げる。5社5名招請予定。

◇日本海エリア 4月・・・桜、チューリップ、カニ、酒（ワイン含む）

◇アルプスエリア 6月・・・残雪、初夏、山岳観光

【行程案】 各エリア2泊3日

4月 富山きときと空港in⇒舟川の桜並木とチューリップ⇒朝日町泊（以上、朝日町）⇒玉翠園・谷村美術館⇒一印かまぼこ店⇒久比岐自転車道⇒マリンドリーム能生（以上、糸魚川市）⇒岩の原ワイナリー⇒上越市泊⇒高田城百万人観桜会⇒朝市見学（以上、上越市）⇒富山きときと空港out

6月 富山きときと空港in⇒樽池高原⇒ヒルクライムコース（以上、小谷村）⇒白馬八方・五竜白馬の小径⇒白馬村泊（以上、白馬村）⇒黒部ダム⇒木崎湖・青木湖（以上、大町市）⇒糸魚川市泊⇒富山きときと空港out

(2) 旅行博出展及びセールスコール（平成29年5月）

5月に開催される台北国際観光博覧会（TTE）に出展し、エンドユーザーに直接訴えかける。また訪台中、旅行会社やサイクルクラブ（ショップ）を訪問し、認知度向上と誘客支援に結び付ける。

◇台北国際観光博覧会 2017年5月5日～8日開催

◇台湾主要旅行会社 台北10社

◇サイクルショップ 台北10社

(3) メディア招請（平成29年9月・10月）

パワーブロガーでもあるサイクリストをエリア内で実施されるサイクルフェスタに招請。体験談をSNS等を通じて発信してもらう。

◇北アルプス山麓グランフوند（白馬村：9月10日開催予定）

◇グランフوند糸魚川（糸魚川市：10月8日開催予定）

◇各大会5名 3泊4日

(4) 印刷物・映像制作

- ・サイクルショップ及び旅行会社掲出用ポスターの制作
- ・You Tube用動画の制作（シーサイド、マウンテンサイドの2種類）

3 目標

エリアの認知度向上
 インバウンド受入環境整備
 新たな観光ルートの構築

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
旅行会社招請	○		○									
旅行博出展・セールスコール		○										
メディア招請						○	○					
印刷物・映像制作	○			○			○					

5 事業費（概算）

3,700,000 円 （国の負担決定額3,600,000円）

内 訳 （ 単 位 ： 千 円）	旅行会社招請	国負担額	北ア負担額	総事業費
	国：通訳費 地方：航空券、国内移動費、宿泊費等	300	1,245	1,545
	旅行博出展・セールスコール	国負担額	北ア負担額	総事業費
	国：出展費、通訳費、台湾現地移動費 地方：宿泊費、航	1,500	960	2,460
	メディア招請	国負担額	北ア負担額	総事業費
	国：台湾国内移動費、通訳費 地方：宿泊費、航空券	1,200	1,212	2,412
	印刷物・映像制作	国負担額	北ア負担額	総事業費
国：動画制作費 地方：ポスター製作費、翻訳費	600	260	860	
計	3,600	3,677	7,277	

二次交通

冬季シャトルバス運行事業（継続）

1 趣旨

冬季、白馬バレーに滞在する外国人観光客に、夕食を目的とした交通手段の提供と受入態勢を整えることでエリア内の観光流動を創出する。

2 事業計画（案）

(1) 実施から3年目（H27年度～）となるシーフードシャトルバスの継続実施。継続することで認知度向上を図り、利用客へは日本海まで近いことを心理的に意識づける。

※平成27年度利用実績 100名（日本人客44名・外国人客56名）

※平成28年度利用実績 121名（日本人客101名・外国人客20名）

【H28年度の行程】

白馬東急ホテル(17:00) == 八方インフォメーションセンター(17:10) == 白馬山麓ツアーズ(17:15) == 南小谷駅(17:35) == 糸魚川駅(18:30~21:30) == 南小谷駅(22:25) == 白馬山麓ツアーズ(22:35) == 八方インフォメーションセンター(22:40) == 白馬東急ホテル(22:50) ※マイクロバス27人乗り(基本) 糸魚川での滞在は3時間

(2) 事業運営は糸魚川シーフードシャトルバス事業実行委員会（糸魚川青年会議所内）。これまでの振り返りを行うなかで、より実績が上がるよう取組を強化する。



【課題】

- ・ 運行時間
- ・ 宣伝方法
- ・ 利用率向上の取組

3 目標

新たな観光ルートの構築
交流人口の拡大

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
							企画・調整					
										運行		

5 事業費（概算）

400,000 円

二次交通

鉄道魅力発信事業（継続）

1 趣旨

在来線の魅力をアピールすることで来訪意欲を創出する。

2 事業計画（案）

(1) 鉄道限定グッズの配布・キャンペーンの実施

- ・ H28年度に実施した同企画を継続。H29年度は、南小谷～信濃大町間の利用者増を図る取組を行う。
- ・ 大糸線の主要4駅（信濃大町駅、白馬駅、南小谷駅、糸魚川駅）にスタンプ台を設置。
- ・ 4駅のうち3駅分のスタンプを集めて限定ストラップと交換。
- ・ ストラップに付属する駅名プレートは9種用意。
(糸魚川・南小谷・千国・白馬・神城・信濃大町・安曇追分・豊科・松本)

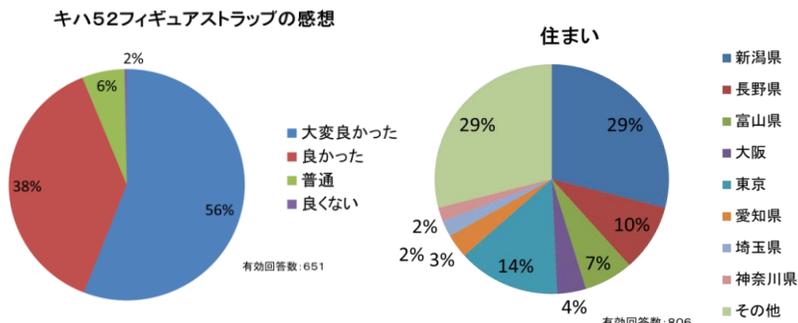
H29年度実施(案)

「懐かしのキハ52限定ストラッププレゼントキャンペーン第二弾」

①期間:平成29年9月9日(土)～11月5日(日) ②個数:1,000個(各駅250個)

③内容:スタンプ押印済台紙と有効な乗車券の提示でストラップと交換。

●H28年度実施データ



(2) 情報発信

- ・ 自治体広報、ホームページ掲載
- ・ 各駅にポスター掲出



3 目標

認知度向上・来訪意欲の創出

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		ストラップ製作										
			宣伝			キャンペーン実施						

5 事業費（概算）

905,000 円

<内訳>

- ・ フィギュアストラップ製作 720,000円
- ・ ロイヤリティ 10,000円
- ・ チラシ・ポスター 140,000円
- ・ 大糸線沿線見所チラシ 35,000円

二次交通

カーゴトラック&トレイン（新規）

1 趣旨

自転車での移動に危険が伴う糸魚川～小谷間を、自転車を貨物トラック便を利用し移動させることでサイクリストが周遊できる環境整備を図り、日本海エリア・北アルプスエリアの相互移動及び大糸線の利用促進を図る。



2 事業計画（案）

(1) 実施時期

8月1日～9月30日までの間の土日祝日（全19日間）

(2) 実施方法

- ・運輸業者が糸魚川～南小谷間において、朝1往復、夕1往復のカーゴ便を設定し、自転車を目的地まで運送。お客さんは自転車をカーゴ便に預けた後、大糸線に乗車し目的地で自転車を受け取る。事前予約制。



【大糸線運行スケジュール】

大町・白馬													
南小谷													
糸魚川													
直江津													

運行スケジュール詳細:

- 大町・白馬 → 南小谷: 9:52 (426D)
- 南小谷 → 糸魚川: 10:04 (426D)
- 糸魚川 → 直江津: 11:00 (426D)
- 直江津 → 糸魚川: 8:52 (432D)
- 糸魚川 → 南小谷: 15:16 (432D)
- 南小谷 → 大町・白馬: 16:24 (431D)
- 大町・白馬 → 南小谷: 16:17 (431D)
- 直江津 → 大町・白馬: 17:21 (431D)

(3) 検討事項

- ・本来であれば旅行商品のパッケージとして販売されるのが望ましい。
- ・そうでない場合、事業を請け負う事業者の選定が課題。予約受付→運行手配→積込・運行→実績報告といった一連の業務管理と乗車切符、カーゴトラック便料金の收受業務が発生。

(4) 情報発信

- ・サイクル雑誌等に本取組を含めたサイクル環境を紹介
- ・サイクル団体等を招致→SNS等で情報の拡散

(5) その他

- ・社会実験的な位置づけ。実施体制の構築を含め、さらなる調整が必要。

3 目標

交流人口の拡大・大糸線の利用促進

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		協議・調整			実施							

5 事業費（概算）

800,000 円

<内訳>

- ・情報発信料（雑誌掲載等） 400,000円
- ・運行支援 400,000円

二次交通

スノーリゾートシャトルバスの運行（継続）

1 趣旨

関西方面からの誘客強化策として、糸魚川駅から北アルプスエリアへのシャトルバスを運行し、JR西日本及び関西方面エージェントからの送客・広報展開支援を受けることで、交流人口の拡大と糸魚川駅の利用促進を図る。

2 事業計画（案）

昨年度開催の「北陸新幹線糸魚川駅利用促進戦略会議」（構成：西日本旅客鉄道株式会社金沢支社、新潟県、長野県、6市町村）であがった課題 ⇒ ”新幹線駅から観光地へのアクセス強化・旅行会社が商品造成しやすい環境整備” の事業化。平成29年度継続実施。

(1) 運行内容

- ・運行形態 貸切バス
- ・料金 旅行会社が販売するツアー代に含む。専用バウチャー券を発行。
- ・車両 大型バス（定員42名） ※予約状況に応じてバスサイズの変更あり
- ・運行日 12月中旬～3月末までの間の毎週金曜～月曜日

(2) 実施方法

- ⇒ツアーを販売する旅行会社が白馬山麓ツアーズに予約状況を報告
- ⇒白馬山麓ツアーズがバス運行会社へ運行を手配
- ⇒バス運行会社が糸魚川駅－北アルプスエリア間を1日1便（往路・復路）運行

3 目標

旅行商品を造成しやすいアクセス環境の整備

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			協議・調整										
									シャトルバスの運行				

5 事業費（概算）

1,000,000 円

HP管理

ホームページ運営管理（継続）

1 趣旨

魅力あるコンテンツを発信することで連携会議のPRを図る。

2 事業計画（案）

- (1) 連携会議の取組みを伝えるほか、イベント開催に合わせた情報更新を行うことで認知度の向上と来訪意欲の創出を図る。
- (2) 広域観光連携を生かした旅行プランを紹介するなど、魅力発信の受け皿とする。
- (3) 各市町村間、観光団体間とのリンクにより露出度の向上を図る。

3 目標

認知度向上

連携会議の魅力情報の発信

4 スケジュール

2017年（平成29年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	運営、管理											

5 事業費（概算）

200,000 円

<内訳>

- ・管理料（年間） 50,000円
- ・情報更新料 3,000円/1h × 45時間 = 135,000円
- ・その他関連作業 15,000円/年

平成29年度 収入支出予算(案)

【収入の部】

(単位：円)

科 目	H 29予算額	H 28予算額	比較増減	説 明
	6,689,000	7,689,000	-1,000,000	
1.負担金	4,000,000	5,000,000	-1,000,000	糸魚川市
	630,000	630,000	0	上越市
	890,000	890,000	0	大町市
	275,000	275,000	0	白馬村
	94,000	94,000	0	小谷村
	400,000	400,000	0	朝日町
	400,000	400,000	0	新潟県（直接執行）
	2.特別負担金	0	1,100,000	-1,100,000
3.補助金	0	0	0	
4.雑収入	200,196	200,000	196	総会交流会費、預金利息
5.繰越金	1,784,804	3,061,355	-1,276,551	前年度繰越金
計	8,674,000	12,050,355	-3,376,355	

【支出の部】

科 目	H 29予算額	H 28予算額	比較増減	説 明
1.事業費	7,905,000	11,284,000	-3,379,000	
広告宣伝	0	1,000	-1,000	広域マップ増刷
広域旅行商品の販売促進	900,000	1,200,000	-300,000	150千円×6市町村
VJ地方連携事業（台湾）	3,700,000	4,300,000	-600,000	
関西AGTモニターツアー	0	1,100,000	-1,100,000	
観光キャンペーン	0	570,000	-570,000	
駅レンタカー乗捨無料事業	0	906,000	-906,000	
冬季シャトルバス運行事業	400,000	500,000	-100,000	シーフードシャトルバス
鉄道魅力発信事業	905,000	1,507,000	-602,000	キハ52限定ストラップキャンペーン
カーゴトラック&トレイン	800,000	0	800,000	
スノーリゾートシャトルバス	1,000,000	1,000,000	0	糸魚川 - 北アルプス連絡バス
ホームページ運営管理	200,000	200,000	0	ホームページ管理
2.連携会議運営費	420,000	666,355	-246,355	
会議費	200,000	200,000	0	総会、交流会等
事務委託費	200,000	450,000	-250,000	糸魚川市観光協会委託
事務通信費	20,000	16,355	3,645	消耗品、事務通信費等
3.予備費	349,000	100,000	249,000	
予備費	349,000	100,000	249,000	
計	8,674,000	12,050,355	-3,376,355	

事業計画、執行状況等に応じて、科目間の流用を行えるものとする。

収入-支出

0